

That's きっとす 令和元年 8 月

終戦直後の学校—飯能第二国民学校「学校日誌」より—

昭和 20(1945)年の終戦により、人びとの生活はあらゆる物事がそれまでとは大きく変わりましたが、今回は終戦直後の学校の様子を、飯能第二国民学校(現飯能第二小学校)の日誌から垣間見てみたいと思います。

終戦の日である 8 月 15 日の項を開くと「一、正午を期して畏くも天皇陛下の御勅語放送せらる。布衣の民(※庶民の意)にして陛下の御声に接す。有史以来未曾有の事に属す。嗟 国体護持、民族の名誉維持、神州不滅」とあり、この日が記入担当の先生にとっていかに大きな衝撃であったのかが感じられます。

その後の日誌には、昭和 20 年末と翌年はじめに昭和天皇と香淳皇后、明治天皇と昭憲皇太后の御真影を奉還し、同 21 年 9 月末から 10 月初めにかけて奉安所(御真影や教育勅語を納めていたところ)を取り壊したことが記されています。これらはいずれも、GHQ による指導のもと埼玉県から出された通牒にもとづいて行われたことでした。御真影や奉安所は、戦時中最も大切にされていたものの一つです。職員や生徒は、前を通るときに必ず服装を正して最敬礼することを習慣づけられていました。それが、戦争の終了と同時に 180 度転換してしまったのです。それまで大切だと教え込まれていたものが破棄されていく様子を、当時の人々はどのような思いで見っていたのでしょうか。(金澤)

